神港学園報

創立90周年 記念特集号

Contents

創立90周年を終えて …… P1
理事長　植村 武雄

「感謝と決意」 …… P1
校長　増尾 禮二

創立90周年記念行事を終えて …… P2
育友会　会長　山崎 雄史

創立100周年に向けて …… P2
金星会　会長　加藤 均

90周年記念行事を終えて …… P3
総務部長　90周年記念行事校内実行委員長　名嶋 茂樹

記念誌編集に携わって …… P4
記念誌編集委員長　中野 薫

永年勤続表彰 …… P5

永年勤続表彰を受賞して …… P5~6
冨岡 浩治／池田 毅

創立90周年記念祝賀会 …… P6

慶びの言葉 …… P7
生徒会 会長　野村 勇介

式典に参加して …… P8
3年9組 今里 綺更　2年7組 下村 佳央　1年7組 河口 拓海

創立90周年記念芸術鑑賞会　海援隊 トーク&ライブ …… P9
3年5組　永田 大貴

飛躍し続ける神港クラブ活動 …… P10~11
柔道部　阿部 一二三
軟式野球部　細見 克之

発行人　学校法人　神港学園
〒650-0003　神戸市中央区山本通4丁目19番20号　TEL.(078)241-3135　FAX.(078)232-1570
http://www.shinko.ed.jp　E-mail. info@shinko.ed.jp

創立90周年を終えて

◀◀ Message

理事長
植村　武雄

神港学園創立90周年の記念事業も無事終了し、本学園の長い歴史に新しい時代への一頁が加えられました。

記念式典や祝賀会等の場で、各界を代表するご来賓各位からは、本学園に対する過分の祝意を頂戴し、いささか面映ゆい思いとともに、本学園がこれからも負うべき責任の重さと使命の重大さを痛感しました。特に、本学園の教育目標、即ち「品位ある、規律正しい、持久力のある生徒」の育成とそのための「画一主義の打破」「個性の尊重」の指導理念を再確認する機会となりました。

私たちは、この教育目標や指導理念を単なるスローガン、お題目にとどめることのないよう、教育現場での日々の実践に活かすことを改めて決意した次第です。

また、今回の多彩な記念事業それぞれのコンセプトづくりからマスタープラン、実施計画の策定そして実行までを、授業や部活指導、生徒指導等に忙殺される中で見事に成し遂げられましたプロジェクト・チームの先生方や貴重なご指導、ご協力を賜りました金星会や育友会の役員の皆様に心から感謝申し上げます。さらに、この90周年を目標年次として体育館等校舎、施設のリノベーションを計画的着実に推進された事務長さんにもその功績を讃えたいと思います。そして何よりも、リーダーシップを如何なく発揮されました豊田前校長に心からの敬意を表するものです。

さあ100周年に向けて、新生神港学園へのスタートです。90年の歴史に学びつつ、増尾校長の強力な指導の下、全教職員一丸となってイノベーションにチャレンジし、「一人一人が、輝く学校」を完成させましょう。

「感謝と決意」

◀◀ Message

校長
増尾　禮二

11月27日（木）の海援隊のトーク&ライブをもって、神港学園創立90周年行事を滞りなく盛大に終了することができました。

これもひとえに豊田稔前校長をはじめ、多くの方々の万全を期した準備の賜物と深く感謝申し上げる次第です。

記念式典においては、生徒の元気良い出迎えに始まり、きびきびとした動作、会場に響き渡る歌声に、ご来賓の方から多くのお褒めのお言葉を頂戴することができました。

また、この記念に花を添えるがごとく、部活動の大活躍もありました。まず柔道部の阿部一二三君は高校柔道選手権優勝を皮切りに、ユースオリンピック優勝などの五大会連続優勝、そして日本柔道史上初となる高校二年生による講道館杯優勝、先日の東京グランドスラムにおいても世界ランカー相手に優勝という快挙を成し遂げてくれました。その他にも軟式野球部の国体準優勝、ゴルフ部森龍希君の日本ジュニア出場、バレー部の春高バレー県予選準優勝、柔道部の県大会三階級制覇等の華々しい活躍が挙げられます。

今年度は90年間を振り返る年、次の100周年に向けて再スタートを切る年であると考えております。

本学園の魅力は、生徒一人ひとりをきめ細かく丁寧に、さらに根気強く指導に当たっている所にあります。しかし、同窓会である金星会の方々とお話しする度に「昔は・・」といった当時を懐かしむ言葉が出てまいります。これからは、過去の事例を引き合いに出すことなく、生徒、保護者、教師、そして卒業生が誇りをもって語れる魅力ある学校づくりを目指さなくてはならないと決意を新たにしております。

そのためには、十年先だけではなく、変化の激しい世界の動きを十分に見極めながら明確な目標と計画を立て臨んでいく必要があります。もちろん過去にあった不遇の時代も念頭におきつつ、数年後に起こる急激な少子化や、いずれ訪れる校舎改築など、避けては通れぬ大きな課題を見据えて学校を導いていかなければなりません。

よき伝統を守り、さらに繁栄を続けていくのは容易でないという事は想像に難くありません。いま目前にいる生徒一人ひとりを理想の人間像に近づけると共に、生徒に夢を発見させ、その夢の実現に向けて、どう導いていくかが我々に課せられた喫緊の責務と考えております。

ご家族で三代にわたり神港学園に在籍したという方も珍しくありません。そのような素晴らしき伝統と母校愛を支えとして、より一層の魅力ある学園づくりに向け、教職員一致団結して取り組んでまいります。今後とも皆様方には変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

創立90周年記念行事を終えて

◀◀ Message

育友会　会長
山崎　雄史

新緑が眩しい平成26年5月7日の良日に本学園体育館において、多数のご来賓の方々のご臨席を仰ぎ、創立90周年記念式典を盛大に挙行することができました。これもひとえに、皆様方のお力添えと深く感謝申し上げます。

式典後は神戸市立相楽園会館にて祝賀会を、また11月には武田鉄矢さん率いる海援隊の記念講演が開催されるなど、厳かの中にも華やかに90周年を祝うことができ、喜びもひとしお大きなものでした。

今後は、この記念すべき節目の機会に会長の要職を賜った者として、また学園にお世話になった保護者の一人として、100周年に向けて、学園の発展と生徒の教育向上のサポートができますよう、ますます育友会の活動を充実したものにしていきたいと思いますので、会員の皆様におかれましては今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、校長先生はじめ諸先生方におかれましては、90年という歴史の重みと伝統を、生徒の皆さんに伝承していただくとともに、引き続き「一人一人が、輝く学校」を目指したご指導をお願い申し上げます。

最後になりましたが、創立90周年記念行事の開催にご尽力を賜りました関係者の皆様に深く感謝、御礼を申し上げまして、学校法人神港学園神港高等学校創立90周年記念行事を終えての私からの挨拶とさせて頂きます。

創立100周年に向けて

◀◀ Message

金星会（同窓会）　会長
加藤　均

平成26年は、我が母校神港学園の創立90周年という記念すべき年でした。私にとって、それは誠に感慨深いことで、多くの卒業生の方も同じ気持ちを持たれたのではないかと思います。私が神港学園で学んだのは、まだ第二次世界大戦の頃。焼野原の神戸の町の残骸の中で、勉強を続けることの難しさをひしひしと感じたことなどがまるで昨日のことのように思い出されます。

しかし、時は流れ日本も神港学園も大きな飛躍を遂げました。わが母校は文武両道の教育機関としてその名前が知られるようになりました。校舎も立派になり、多くの卒業生が各界で活躍しています。私たち卒業生はそのことを心から誇りに思っています。それは、在校生も同じことでしょう。

しかし、私たちはこの90年という歴史と伝統に安住してばかりはいられないと思うことも事実です。私はある歴史上の偉人が言った「過去を顧みることは未来に責任を持つことである」という言葉を今思い出しています。すべての命あるものは、水や空気、食物などがあってはじめて成長することができます。それと同じように、「学校」という無機なる存在も「栄養」がなければ存在することも、ましてや成長することなどできないでしょう。

その「栄養」とは何か、と私は創立90周年を過ぎた今考えています。後十年で神港学園は記念すべき創立100周年を迎えます。卒業生、在校生、教職員、保護者すべての関係者がそれぞれその「栄養」について考えること、そのことが今求められているのかもしれません。広く世界に目を向けて、多くの人々と交流し、新鮮な空気を常に送り込むこと。そして、他者から謙虚に学ぶ態度。私は80歳を超えた今でもそのことを自分の「栄養」としています。

これから、より素晴らしい学び舎の未来を創造するために、神港学園の関係者すべてが力を合わせて新しい歴史を作っていくことを心から願ってやみません。

90周年記念行事を終えて

◀◀ Message

総務部長
90周年記念行事校内実行委員長
名嶋　茂樹

本年5月7日に本学園の創立90周年記念式典及び祝賀会を無事に大過なく実施することができました。これもひとえに本学園の育友会、金星会、理事会、教職員の皆様ほかそれに携わっていただいた多くの関係各位のご協力とご支援の賜物と感謝申し上げます。

当日は天候にも恵まれ、予定しておりました行事を予定通りに実施でき、参列生徒達の立ち居振る舞いに来賓を始め、ご来場いただいた多くの方々からお褒めの言葉をたくさんいただき、改めて感謝と感激の気持ちでいっぱいになっております。

今回の周年行事を実施するにあたり、準備委員会では当初から、来るべき100周年を見据え90周年はできるだけ質素に、しかし、手は抜かず、丁寧に手作り感ある温かい式典と祝賀会に作り上げることを基本コンセプトとして出発しました。それで、神戸国際会館や文化ホールのような大きく派手な会場は100周年で使用するとし、今回は本学園の体育館で式典を、近くの相楽園会館で祝賀会を実施する運びとなりました。折角の機会でもあり天気もよかったので招待客の方々に相楽園の庭園を見学して頂くように手配し、その準備や当日の接待等で多くの方々にお世話になり、ご来場の皆様には満足して頂いたようでした。また、式典における参列生徒の役割をいろいろと試行錯誤する中、今年度より新校長として就任された増尾禮二校長のアドバイスが大きな決め手となり参列生徒達も式典の一翼を担うよう検討し、生徒会や剣道部の諸君の協力で来賓の誘導を、また、一般参列生徒の一斉挨拶や式典中の所作の指導など、様々なアイデアが出され、それを実行に移すことができました。就任以来、機会あるごとに校長が唱えておられる『共通認識・協働実践』を教職員と生徒が具現化した結果でした。また、記念誌発行に際しては、編集委員長の中野教諭を中心とした編集委員の方々のご努力と原稿の寄稿にご協力を頂きました多くの皆様に対し、この誌面をお借りして感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。

一連の周年行事の締めを飾るべく、過日、90周年記念芸術鑑賞会として神戸国際会館こくさいホールで開催されました『海援隊のトーク&ライブ』は、盛況の下、多くの皆様に鑑賞していただき、大いに盛り上がりました。海援隊を招聘するにあたりご尽力いただいた関係者の皆様、そして何よりもこちらからのオファーに快く応じていただき、本学園の90周年に花を添えていただいた武田鉄矢氏・中牟田俊男氏・千葉和臣氏に御礼と感謝の気持ちをお伝えします。さらに、もう一つ花を添えてくれた出来事は柔道部の阿部一二三君の全国高校総体オール1本勝ちでの優勝やユースオリンピックなどの世界大会での金メダル獲得、さらには、成人も含めた二つの大きな大会（講道館杯とグランドスラム東京大会）で共に史上最年少での優勝という輝かしい金字塔を建て、柔道の歴史にその名を刻んだこと。また、軟式野球部の国体準優勝など創立90周年を飾るにふさわしい、これ以上ない活躍が心に刻まれた年でした。

90周年の主な行事が終わり、本学園は今、基本的な学習習慣の充実や学校生活の向上を目指し、遅刻を無くそう、挨拶をしよう、授業を大切になど、基本的な事柄に焦点を当て、よりよい学校環境を構築するため教職員と生徒が一丸となって取り組んでいる最中です。やればできる、継続していくことが大事だと生徒や教職員の意識改革から始めております。わずか数カ月ではありますが生徒たちの意識も変わりつつあります。創立以来の教育理念である『画一主義の打破』『個性の尊重』『自由主義教育』の理念を堅持しつつ、自由をはき違えた規律の無い学校生活ではより良い学校になってはいかないとの思いから頑張っているところです。本学園がこれから直面するかもしれない様々な課題を克服していけるような盤石の基礎を築くための改革も必要ではないでしょうか。次の10年、20年先に神港学園が更なる発展を遂げていけるよう生徒諸君も母校の発展に寄与する努力を惜しまず、また、我々教職員が一丸となってこの学園の発展に寄与できるよう更なる努力をする決意です。

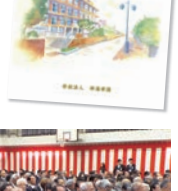
記念誌編集に携わって

◀◀ Message

記念誌編集
委員長
中野　薫

創立90周年の記念事業の一環として記念誌の作成があり、2年前に編集委員長のお話をいただきました。本学園に赴任してまだ7年目でしたので、大役を任せていただき大変光栄に思いました。作成にあたって、まずはこれまでの歴史を振り返ることから始めました。過去の記念誌には創立以来の出来事が詳細に記されており、その当時の方々が、どんな困難な状況でも前を向き、努力を重ねてこられたことが強く印象に残りました。多くの関係者の方々の努力が実を結び、創立90周年を迎えることができたのだと思うと、90年の歴史と伝統を受け継ぐものとして改めてその責任の重さを感じました。

今回の創立90周年は、次の100周年に備えて、華美ではなく、式典も本学園の体育館で行う「手作りの式典」をコンセプトとして、教職員、関係者一同で進めていくというものでした。それに伴い、記念誌も従来の半分くらいのボリュームでまとめることになったので、内容は、創立80周年からの10年間の歩みを中心に取り上げることにしました。ここで一番難しかったのが、創立からの80年の歩みをまとめることでした。本学園には60周年、70周年、80周年に立派な記念誌が編纂され、過去の歴史が詳細に記されています。この膨大な量の歴史を、いかにわかりやすく、コンパクトにまとめるかが課題でした。試行錯誤の末、思いついたのが年表形式でした。細部まで全てを伝えることはできませんが、何度も考え、書き直して出来上がった「80年の歩み」は一読して理解できるものにまとまったのではないかと思います。次に、レイアウトにもこだわりました。創立90周年のコンセプトをふまえ「手作り感」を出すこと、創立80周年で男女共学になってからの10年であることから、柔らかさや温かみも感じられる記念誌に仕上げたいと思い、レイアウト、色使いなど、ひとつひとつ自分で考え、書き出し、業者の方にイメージを伝え作成しました。こうして私がひとつひとつ丁寧に時間をかけて考えることができたのも、名嶋総務部長、編集委員の方々をはじめとする全教職員、原稿依頼を快く引き受けて下さった方々と、たくさんの方の支えがあったおかげだと思います。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。



記念誌のあとがきでも述べましたが、私が生きていく上で大切にしているものは「笑顔」です。記念誌の作成時にも多くの方々の「笑顔」に接することができ、神港学園が過去も現在も「笑顔」にあふれる学園であることを実感できましたが、完成後も、記念誌を手にとって下さった方々から、「いい記念誌ができましたね。」と「笑顔」でお言葉をかけていただくことが多くありました。この記念誌が、100周年、110周年と未来の神港学園の「笑顔」につながるもののひとつになれば幸いです。

90周年誌では伝えきれなかったことをはじめ、至らない点も多々あると思いますが、10年後の100周年誌に託したいと思います。記念誌の編集に携わり、多くの方々に支えていただいたことで、改めて人と人との繋がりの大切さを実感し、感謝の気持ちを強く持つことができました。私にとって実りの多い時間となりました。本当にありがとうございました。

永年勤続表彰

40年以上

栄永 利夫　波戸岡 修一　和田 順

35年以上

濱田 亀志政　河井 博光　名嶋 茂樹
後藤 誠　佐々木 敏博

25年以上

坂東 敬一郎　木村 誠　河瀬 比呂志
北原 光広　池田 毅　冨岡 浩治　十佐近 昭彦

永年勤続表彰を受賞して

冨岡　浩治

永年勤続賞をきっかけに、私が教員を目指すようになったのはいつ頃だろうかと思い返してみると、はっきりした時期は分からないが中学時代の頃のように思う。英語がカッコイイという優柔不断な理由でのめり込んで行ったような気がする。高校では、個性豊かな英語教師に出会い、強制的に学習させられたり、恩師の素晴らしい経験に尊敬の念を抱いたりするうちに、益々教職への思いが強くなっていった。英語以外の学習にはそれほど身が入っていなかった学生時代だったが、教員免許を取るために大学へ進学し、どうしても海外放送が聴きたくて短波ラジオを購入し、VOAやFENに感動したのを覚えている。英語の楽しさや面白さを伝えるには中学英語が最適だと考え、中学校の英語教師が第一志望となった。就職活動には全く見向きもせず、大学卒業後、全日制高校や定時制高校では講師として、塾では中学生を相手に英語や数学を教える日々を二年間送った。その後、昭和が平成に変わった年に何かの縁で神港学園にお世話になることになった。若さと情熱を武器にがむしゃらに毎日奮闘したことを懐かしく思い出す。あっという間に表彰対象の年数になってしまったが、ここでは書き切れないほどの経験が今の私のエネルギーになっていることを実感している。そして、立派に巣立っていった卒業生という素晴らしい財産を今後も蓄えていける教師という仕事に携わっている自分を幸せに思っている。私は、プロとして結果にこだわることは当然だと思うが、人を育てていくにはそのプロセスも大切であると考えている。毎日の努力が明日に繋がり、やがては将来の夢や希望に繋がっていくと信じている。失敗してもそれを無駄だと思わず、成功へのきっかけであると前向きにプラス思考で考えるように心がけている。人生ではもう折り返し地点を過ぎ、あと何十年も教壇に立つことはできないが、心に笑顔を忘れず、元気に明るく、周りへの感謝の気持ちを持ち、情熱の続く間は教職を満喫したいと希望している。

永年勤続表彰を受賞して

池田　毅

幼い頃から好きなことばかりする、我が儘な性格で、周りに心配や迷惑ばかりかけていた私が、ある先生との出会いをきっかけに学ぶことの楽しさを知り、勉学に励むようになりました。受験勉強に打ち込み手に入れた大学生活は、何の目標もなく漠然と過ごしてきた10代を取り戻すかのように、勉学、部活動、アルバイト、ボランティア活動と、様々なことに挑戦し、充実したものとなりました。その中で、私自身の成長に大きな影響を与えてくれた先生のような教師になるという夢もでき、努力を重ねていきました。

大学卒業後は、大阪府の専修学校、次に神戸市の女子校で教壇に立ちました。神港学園から声をかけていただいた時は、何事も経験、男子校もその一つと考え、とにかく挑戦し、様々なことを学んで次に生かそうという思いで臨みました。平成元年、一年生の担任としてスタートしました。入学してきた生徒は絶対に卒業させようと思い、日が暮れるまでホームルームをしたり、時には取っ組み合いもしたりと、今の生徒の何倍も甘えたで、気性の激しい生徒達と日々奮闘しました。また、厳しくもあたたかく、未熟な新米教師である私を見守り、指導をして下さった先生方のおかげで、生徒達を無事に卒業させることができました。この時、「神港学園は先生も生徒もいいなあ。」と思い、神港学園で教師を続ける覚悟ができ、今日永年勤続賞を受賞するに至りました。

これまで出会って別れた多くの生徒達、北海道、韓国、オーストラリア、カナダ、宮古島と共に訪れた修学旅行、新任早々に硬式野球部の副部長となり夏の甲子園に出場して三回戦に進出したこと、女子一期生の担任として悩み多き三年間を過ごしたことなど、数え切れない思い出があり、どれも自分にとっては貴重な一ページです。今までもそうでしたが、これからも一人でも多くの生徒が神港学園に入学して良かったと思ってくれるよう精進していこうと改めて決意できた良い機会となりました。

創立90周年記念祝賀会

相楽園会館にて

生徒会

慶びの言葉

生徒会長 **野村 勇介**

新緑が野山に萌える今日、これまで学園を支え、築いてこられた先輩方と共にこの創立90周年という記念すべき年を迎え、お祝いできることを大変嬉しく光栄に思います。また、ご来賓の方々には、本日はご多忙にもかかわらずお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

本学園では90周年を迎えるにあたり、たくさんの改革が行われてきました。創立80周年を機に男女共学化が実現し新たな一歩を踏み出しました。それから10年が経過しましたが、その間に進学コースも新設され、校舎の改修や耐震工事も終わり、より快適な環境で学校生活を送ることができるようになりました。

また、生徒会としては、いろいろな機会を通してボランティア活動にも積極的に参加してきました。春と秋にはあしながや学生募金に参加し、夏には阪神・淡路大震災で学んだ事を少しでも生かしてもらえるように、岩手県立大船渡高校とも交流をしてきました。私たち一人一人の力は微力ではあっても、自分たちにできること、やらなければならないことを、ささやかではあっても先頭に立って行動を起こし、継続していくことで、やがていつか大きなうねりとなり、全校生徒や地域に広がり、一つの力になっていけるのではないかと思い、今後も地道に活動を続けていきたいと思っています。

今、現在、私たちは、とても恵まれた環境で学んでいると思います。まず「文武両道」を貫ける学習環境があります。部活動を熱心に指導して下さる先生方の存在もあり、活動も活発で実績も残しています。また行事は全力で参加して完全燃焼し、クラスの団結力が深まります。そしてなにより、進路実現や学校生活など悩み多い思春期の私たちに親身になってくれる先生方がいらっしゃいます。

高校生になると、学校行事の企画・運営などを生徒主体で行う機会も増えてきます。しかしその分、自分たちの行動には責任を持たなければなりません。入学以来、そのことを強く認識する機会を幾度となく与えていただいたものです。そんな風にこの学園で学んだことは数えきれないほどあります。在校生である私たちは先輩方が積み上げてこられた伝統を受け継ぎながらも、新しい神港学園を創っていかなければならないと思います。私たちは卒業すれば、皆、それぞれの進路を歩んでいきます。しかし神港学園で学んだ事を糧に、それぞれの夢の実現に向けて全力で頑張っていきます。

最後になりましたが、創立90年という日を新たな出発点として、これからも積極的に学び、活動し、学園の歴史に新たな1ページを刻んでいくことを誓い、慶びの言葉とさせて頂きます。本日は誠にありがとうございました。

3年9組
今里 綺更

創立90周年ということで今年度5月7日に記念式典が行われました。会場にはたくさんのご来賓の方が見えて、体育館がいつもより広く感じました。入学式の時とは、また違った緊張感のある式典でした。

私が小学校5年生の時、通っていた小学校は創立10周年を迎えました。小学校の校歌を作曲して下さった先生は、神港学園の前校長の豊田校長先生の娘さんでした。担任の先生ではありませんでしたが、とても優しい先生で、大好きでした。この式典は、私に大切な思い出を思い出させてくれたとてもいい機会でした。在籍中に、この90年という節目を迎えることができ、とても嬉しく思います。

そして今年、校長先生が代わり、神港学園もより良い方向へと変わりつつあります。記念誌に記載された、セピア色の写真や白黒写真の神港学園は、まさにその歴史を物語っていますし、まだ私たちが生まれていない頃の卒業生が色々な場所で活躍しているのだと思うと、神港学園に通っていることが、とても誇らしく思えます。また、神港学園に女子生徒が入学するようになってから10年が経ちました。まだまだ女子生徒は少なく、困難なこともあります。でも、そんなところを含めて、この神港学園に来て良かったと思います。何より、人と人とのつながりが大きく感じられました。高校生活も残りわずかとなり、目の前には大きな目標が立ちはだかっています。悔いのないよう、残りの時間を過ごしたいです。そして、この神港学園が伝統ある学校として今後も発展していくことを願っています。

2年7組
下村 佳央

90周年式典の前日、式典に参加する生徒達が中庭に集められ、諸注意が伝えられました。式典当日の服装や髪型、集合時間から式典中の態度まで、こと細かく指示されました。「式典とはいえ、そこまで細かく指示しなくてもいいだろう。」と内心は思っていました。その後、帰りのホームルームで式典のパンフレットや記念誌が配布されました。何気なく記念誌に目を通してみると、その中には、私たちが知らない神港学園の歴史が書かれてあり、当時の神港中学の写真や美しいレンガ校舎を背景にした卒業写真が添付されていました。それを見ていると、学校の伝統の大切さを実感しました。読み終わって私は、ふと「何故90周年式典にこだわるのか。」考えてみました。きっとそれは90年という長い歴史と伝統を実感して、これからの神港学園がどんな未来を歩んでいくかを考える大切な行事だからだと思いました。

そして、式典当日、会場となった神港学園の体育館には、朝早くから参加生徒達が時間厳守の下、集合していました。式典開始30分前ぐらいから、たくさんの来賓の方々が続々と来校されました。来賓の方々の多さに、私は改めて、神港学園の厚みを感じました。そして式典が始まり、厳粛な雰囲気の中、学園関係物故者への黙祷や理事長、来賓の方々からの祝辞などが次々と執り行われました。式典も終盤に差し掛かり「校歌斉唱」となりました。生徒全員が大きな声で歌っている姿を見て、神港学園の団結力を感じました。式典も終わって、普段の学校生活に戻り、私は学校に対する認識が高まりました。私は伝統ある神港学園の一員であることに誇りと感謝の気持ちを持って、物事に取り組んで行こうと思いました。また、この式典は「この神港学園をより良くするためにはどうしたらいいか」ということを考えるきっかけになりました。

1年7組
河口 拓海

式典の前日、私たちの手元に90周年記念誌が配られました。私は、記念誌を手にした時、その分厚さに、この学校の90年間の長い歴史の重みのようなものを感じました。その中には、私たちの知らない神港の歴史が書かれていました。神港学園は地元の人々が、その熱意により寄付金を出し合って設立されたそうです。また、校舎や生徒たちのモノクロの写真がとても新鮮に感じられました。中でも、赤レンガの校舎を背景に撮られた卒業写真や、生徒たちが一生懸命に先生の話に耳を傾けている授業の様子の写真に目が止まりました。彼らの表情は今の私たちよりも逞しく、精悍な感じに見えました。こんなに古い時代からこの学校があり、ここで多くの生徒が学び、巣立っていったのかと思うと、自分の学校である神港学園のことをとても誇らしく感じました。

そして5月7日、記念式典が行われました。会場は学校の体育館でした。式典独特の雰囲気の中で、校長先生の熱いお話をはじめ、たくさんの来賓の方々からのご挨拶などがありました。中でも、神港学園の長い歴史や神港生としての誇りについてなどのお話は、とても奥が深いと思いました。そして、私の心の中には、伝統ある神港学園の一員として誇りと自信を持ち、あらゆることに臨んでいこうという強い意志がしっかりと芽生えてきました。

私は独自の校風を持つこの神港学園に、90周年という素晴らしい時期に入学できたからこそ、それに相応しい学校生活を送っていきたいです。まず、地元や地域の人々に「さすが神港の生徒だ!」と思われるような、品位があり礼儀正しい生徒として頑張っていきます。そして、勉強もスポーツも素晴らしいという学校にしていきたいです。そのためには、共に助け合う心と努力が必要です。90周年という今だからこそ、今まで以上に素晴らしい学校生活を目指す決意が大切だと思います。私は神港生であることに誇りを持ち、様々な分野でいっそう努力し、頑張っていきます。

創立90周年記念芸術鑑賞会

海援隊　トーク＆ライブ

神港学園創立90周年記念事業の一環として、平成26年11月27日に神戸国際会館こくさいホールにて、海援隊の皆様をお招きし、記念芸術鑑賞会を開催しました。全校生徒、教職員をはじめ、来賓や保護者と多数の関係者の方が来場し、武田鉄矢さんの実体験や生徒達への教訓をふまえたトーク、海援隊のすばらしいライブに会場は大盛況となりました。創立90周年の記念芸術鑑賞会として、深く心に残る素敵な時間となりました。

海援隊

武田　鉄矢
中牟田　俊男
千葉　和臣

当日の曲目

1. フォークソング
2. 人として
3. 贈る言葉
4. そうだ病院へ行こう
5. 思えば遠くへ来たもんだ
6. 母に捧げるバラード
7. スタートライン

3年5組
永田 大貴

武田鉄矢さんといえば「3年B組金八先生」という認識が主であり、人柄や経歴などは全く知らなかった。テレビなどで頻繁に目にしていたのにも関わらずだ。そのためこの度の催しは偉大なる武田鉄矢さんの人物像を知る絶好の機会であった。

人柄は気さくで、小気味良く軽妙洒脱な話術には皆自然と笑みが零れていた。中でも、本能寺を焼いたのは誰かと教諭が教え子に問うた話は秀逸で、最も場内が湧いたのではないだろうか。

実体験を交えた話だけでなく、人生の先達としての教訓と言うものも伝授して頂いた。それは、サボったものは自分にいつか必ずかえってくるということだ。武田さん自身、学生時代に少し不真面目な所があり、授業をサボった記憶もあるそうだ。そのせいで、当時疎かにした英語を今になって勉強しているという。私はこの教訓を踏まえ、例え困難に直面したとしても、逃げずに今立ち向かおうと思った。

武田さんが母親を深く敬愛していたということを海援隊の代表曲の一つ「母に捧げるバラード」が最も表していたと思う。私にとっての故郷は母。武田さんの大きな支えとなっていたものは母の優しさだった。そして、私は自分を省みた。母のみでなく、友人や先生方の優しさを当然と思ってはいまいか。かけがえのない人たちに心から感謝する気持ちを忘れてはいまいか。日頃の自分の言動、行動を見直す事ができた貴重な時間だった。

文武両道　飛躍し続ける神港クラブ活動

柔道部

柔道部　**阿部 一二三**

私は11月8日に「平成26年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会」に出場しました。この大会は、私が初めて出場するシニアの大会で、強豪選手がたくさん集まる中で、どれだけ自分の柔道が通用するのか、ひとつでも多く勝って上に進むことを目標とし、毎日練習に励んできました。

試合当日は緊張もしましたが、「絶対勝ってやる」という気持ちを持って、目の前の試合に臨みました。初戦を突破し、2試合目は2013年の世界選手権大会で銅メダリストの選手が対戦相手でした。この試合の前に、顧問の山本先生から「お前は高校生やから最初から思い切って前に出ていけ。」というお言葉をかけていただき、私はその言葉通りに試合開始と同時に思い切って前に出て向かっていきました。すると、その選手に一本を取って勝つことができました。勝った時は本当に嬉しかったです。そこから私は高校生らしく、挑戦者らしく、前に出る柔道を心掛けて試合に臨みました。これが良かったのか、私は準決勝、決勝へと勝ち進むことができました。講道館杯の決勝戦、何とも言えない気持ちで決戦の舞台に上がりました。決勝戦でも前に出る柔道を心掛けて全力で相手にぶつかりました。その結果、優勝することができました。震えるくらい嬉しかったです。この優勝は自分の力だけでなく、支えてくれた人、応援してくれた人たちの力があってこそだと思っています。本当にありがとうございました。

そして、私は12月5日、グランドスラム東京という世界大会に出場しました。シニアの世界大会はこれが初出場でした。この大会の組み合わせでは、準決勝で世界チャンピオンの海老沼選手と戦うことになるので、まず海老沼選手と戦うことを目標にしました。世界の強豪選手相手に、「一本を取る柔道」を心掛け試合に臨みました。そして、準決勝まで勝ち進み、海老沼選手と試合をしました。最初に有効を取られましたが、引かずに攻め続け、最後40秒で技ありを取り返し逆転勝ちすることができました。その勢いに乗って、優勝することができた時は心の底から嬉しく思い、喜びと感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。今回の大会で世界チャンピオンに勝てたことが更なる自信となりました。この一年、様々な大会に出場し、たくさんのことを学ぶことができました。今後は、リオ五輪出場を目標に、一層努力していきたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。

主な戦績

全日本カデ柔道体重別選手権大会
66kg級 優勝

全国高等学校総合体育大会　柔道競技
66kg級 優勝

第2回ユースオリンピック　柔道競技
66kg級 優勝

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
66kg級 優勝

世界ジュニア柔道体重別選手権大会
66kg級 2位

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会
66kg級 優勝

柔道グランドスラム東京2014
66kg級 優勝

柔道グランドスラム東京2014にて

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会にて

文武両道　飛躍し続ける神港クラブ活動

軟式野球部

軟式野球部　主将 **細見 克之**

「全国制覇」、9年ぶり二度目の頂点をつかむために新チームは始動しました。

軟式野球は得点が入りにくいため、一点がとても重要になります。攻撃においては、走塁力が欠かせないので、日頃から走り込みなどをはじめ、基礎からしっかりやり直しました。その上、失点しないように、技術と共に声を出すことにも力を入れ、チームワークを高めることで守備力を徹底的に鍛え上げました。私たちは、練習場所がなく、市内のグラウンドを借りるために、時間も限られています。しかし、その分集中して練習に臨んだことが、実力の向上につながったのだと思います。昨年の秋の県大会で優勝したものの、春は準優勝で終わりました。この敗戦を機に、もう一度今までやってきたことを見直し、勝つためには、野球の練習だけではなく、日頃の生活、行動においても意識を高く持ち続けなければならないと考え、実行してきました。こうして、迎えた夏の県大会は、試合前のルーティーンでチームを鼓舞して挑み、勝ち進みました。決勝では、九回二死一点差に迫ったところで満塁ランニング本塁打が飛び出し、逆転勝ちで優勝を決めることができ、歓喜にあふれました。追い込まれたところで力を発揮できたのは、日頃、何をするときも意識を高く持ち、努力してきたことが実ったのだと思いました。努力の大切さを改めて実感しました。全国大会では、初戦は勝利しましたが、二回戦はサヨナラ負けで敗退しました。この悔しさをバネに、一ヶ月後に臨んだ長崎国体では夏の覇者に競り勝つことができましたが、決勝で敗れ準優勝でした。優勝はできませんでしたが、この一年で多くのことを学び、県の代表として、強い責任感をもって試合にのぞむこともでき、良い経験をさせていただきました。たくさんの人に支えていただいた感謝の気持ちを忘れず、今後に生かしていきたいと思います。そして、後輩たちには、私たちが果たせなかった「全国制覇」を成し遂げてもらいたいです。

主な戦績

平成26年度春季兵庫県高等学校軟式野球大会
準優勝

第59回全国高等学校軟式野球選手権　兵庫大会
優勝

第59回全国高等学校軟式野球選手権大会
ベスト8

第69回国民体育大会　高校野球軟式の部
準優勝

平成26年度秋季兵庫県高等学校軟式野球大会
優勝

平成26年度秋季近畿地区高等学校軟式野球大会
ベスト4

長崎国体にて